

一般環境経路による石綿ばく露の健康リスク評価に関する調査

176百万円（177百万円）

環境保健部企画課石綿健康被害対策室

1. 事業の必要性・概要

石綿取扱い施設周辺などで一般環境経路による石綿ばく露の可能性があった代表的な地域の住民を対象として、調査対象者を5年間追跡する調査を実施し、石綿ばく露の状況の違い等による石綿関連所見や石綿関連疾患の発生状況の比較等を行い、石綿ばく露者の中・長期的な健康管理のあり方を検討するための知見を収集する。

2. 事業計画（業務内容）

(1) 石綿ばく露の健康リスク評価に関する調査

- ① 調査対象地域において、問診、胸部エックス線検査、胸部CT検査等の検査を5年間継続し、石綿ばく露の状況の違い等による石綿関連所見や石綿関連疾患の発生状況の比較等を行う。
- ② 中央環境審議会の答申を踏まえ、過去に調査対象地域に住んでいた者をなるべく多く含めた形で調査を行い、より効果的・効率的な健康管理の在り方を検討・実施する。

(2) 石綿ばく露に係る症例対照調査

中皮腫死亡者の多い地域においては、中皮腫死亡者（症例群）及び中皮腫死亡者以外の者（対照群）の石綿ばく露状況を比較し、石綿ばく露の形態による中皮腫発症リスクについて知見を収集する。

区分	22	23	24	25	26
(1) 石綿ばく露の健康リスク評価に関する調査（7地域※）					
① 問診、胸部エックス線検査、胸部CT検査					→
② 過去に7地域に住んでいた者					→
※大阪府泉南地域等、尼崎市、鳥栖市、横浜市鶴見区、羽島市、奈良県、北九州市門司区					
(2) 石綿ばく露に係る症例対照調査			→		

3. 施策の効果

一般環境経路による石綿ばく露の可能性があった代表的な地域において、石綿ばく露の状況の違い等による石綿関連所見や石綿関連疾患の発生状況の比較等を行い、石綿ばく露者の中・長期的な健康管理のあり方を検討するための知見が収集される。

一般環境経路による石綿ばく露の健康リスク評価に関する調査

1. 石綿ばく露の健康リスク評価に関する調査

対象者

複数年の継続的な検査等

(1) 石綿取扱い施設周辺などで一般環境経路による石綿ばく露の可能性があった代表的な地域（7地域※）の住民

(2) 過去に7地域に住んでいた者（拡充）

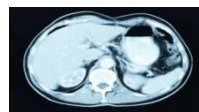
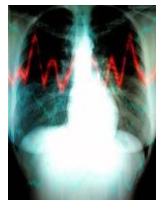
※大阪府泉南地域等、尼崎市、鳥栖市、横浜市鶴見区、羽島市、奈良県、北九州市門司区

問診、
胸部X線、
胸部CT

有所見群※

無所見群

石綿ばく露の状況の違い等による石綿関連所見や石綿関連疾患の発生状況を比較。



※①胸水貯留、②胸膜プラーク、③肺野の間質影等の8つの所見

(参考) 平成22年度までの調査対象者数(実績): 2,721名(平成22年度)、4,526名(平成18~22年度の累計実人数)

2. 石綿ばく露に係る症例対照調査

対象者

過去にさかのぼって、
ばく露状況を比較

上記の調査対象地域の中で、「症例群」と「対照群」を選定する。

○症例群

中皮腫死亡者(死亡小票を利用)

○対照群

中皮腫死亡者以外の者(症例群と性、年齢等をマッチさせる)

「症例群」、「対照群」それぞれについて、過去にさかのぼって、職歴、居住歴等のばく露状況を比較。

中皮腫の発症率を2つの群で比較して示す尺度(オッズ比)を算出。

石綿ばく露者の中長期的な健康管理のあり方を
検討するための知見を収集